

# ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

■会長 岡戸 利直  
■幹事 鈴木 宏司

半田南ロータリークラブ 例会/毎週火曜日 半田商工会議所 ■創立:1980.2.12  
愛知県半田市銀座本町1の1(半田商工会議所内) TEL.(0569)21-0324 FAX.(0569)23-4546 ■認証:1980.2.25



- 司 会 S. A. A 杉浦 豊幸君
- ソングリーダー 杉浦 豊幸君
- ロータリーソング 「手に手つないで」  
「四つのテスト」
- ピアノ 中田美由紀さん
- ビクター 杉野 正博君 (常滑)

## 会長挨拶

会 長 岡戸 利直君



74歳のおじいちゃん市来龍作さんは、きっとこの世の最高の春を感じておられると思います。私なら、もう何時あの世にいても良いと思うでしょうね。

私の周辺では、2~3年の間で親戚を含め、お寺3か所、神社1か所、計4か所の落慶法要、落慶式があり稚児行列の事業が執り行われました。稚児行列には3回参加すると「幸せ」になると言われておりましたので、孫には2回続けてお寺の稚児行列に参加させました。なぜ3回かということ、3はみつつ、満つ、満たされることだから運が良いとか、建物の造り替えはそれ程何回もある事ではないから、3回もあれば運が良いというところから来ていると、巷では言われています。3回目があればいいなと思いながら過ごしていたところやって来ました。隣地域の神社の拝殿が完成し、稚児行列が行われることになり友人からお誘いがありました。そのの氏子の方々が言われるには、神社の1回は、寺の3回分になるよと勧誘に廻っておられました。「なぜ？」と問いかけても「昔から、そのように云われて来たから」との返事でした。どなたか明快に教えて下さい。

この稚児行列は、幼児の数よりも親やジジ・ババの方がはるかに多く、親子は緊張して参加し歩きましたが、ジジ・ババはニコニコ「いつも笑顔で！」随行していま

した。私もそんな歳になりました。

つい先日の日曜日、国内女子ゴルフKKT杯バンテリントンレディスにおいて、高校1年生15歳の勝みなみ選手が史上最年少記録を更新し優勝しました。プロの有村選手曰く、「今はボールもクラブも格段に進歩しており、アマチュアとの技の差も少なくなっています。誰が優勝してもおかしくない」と。まだ高校1年ですよ。本当によく頑張りました。アッパレですね。

勝みなみさんのおじいちゃんである市来龍彦さんがみなみさんをゴルフ場に連れて行ったのが6歳の時と言われております。ゴルフよりも、ゴルフ場の花を採ったり、池のオタマジャクシを掴んでいた方が好きな女の子でありましたが、今では、市来さんからゴルフについてもう何も教えることはないそうです。また、みなみさんはアイスクリームが特に好物との事です。

私も2歳から5歳の孫が3人おり、全てお姫さんです。時々ジジと一緒に寝たいとせがまれ、お泊りに来ますがそんな時、私は目を点にして一緒に風呂の中でのぼせる直前までお付き合いしております。今からは、アイスクリーム会社を開業するほどゴルフの腕を上達させようとは思いませんけれど、孫と一緒にアイスクリームを頼張りながら、将来、孫からおじいちゃんのお蔭と言われる自分を夢見て、せめてゴルフのニギリだけは負けない自分創りに励んでいきたいと思っています。

## 幹事報告

幹 事 鈴木 宏司君

1. 事務局の休日の件
2. 会長幹事会報告の件
3. 東知多会長退会で変更の件

## 副幹事報告

副幹事 榊原 英君

### ●例会変更(サイン受付あり)

- |          |      |      |
|----------|------|------|
| 4月24日(木) | 半田RC | 例会変更 |
| 5月12日(月) | 知多RC | 例会変更 |
| 5月14日(水) | 東海RC | 例会変更 |
| 5月15日(木) | 半田RC | 例会変更 |
| 5月23日(金) | 常滑RC | 例会変更 |

## 委員会報告

### ●出席委員会

第1638回例会 4月22日(火) 天気(曇)

本日の例会は31名の出席にて、出席率は79.95%です。  
なお、前々回は4名のメーキャップにて94.87%に訂正  
します。

### ●Smiling Box

岩部 雅人君 本日卓話担当です。先日宣長さんの墓参りに行きましたら、山桜がきれいに咲いていました。山桜の話はまたの機会に譲ります。

石川 勝彦君 JR福知山線脱線事故から18年、中華航空機名古屋空港墜落事故から20年、科学は進歩したが、どうも人間は進歩していないようだ！

早退します。 手島 嘉宏君

合計3名 5,000円

## 卓話



スピーカー 岩部 雅人君  
演 題 『古事記伝』を伝えた父娘・帆足長秋と京

### 『古事記伝』を伝えた父娘—帆足長秋と京

1. 本居宣長と『古事記伝』
  - ・出生、京都遊学、医師開業
  - ・松坂の一夜、縣居門入門
  - ・『古事記伝』着手、35年をかけて完成、全44巻
  - ・宣長と『古事記』
  - ・鈴屋学派、春庭と大平
2. 帆足長秋について
  - ・肥後国山鹿郡久原村の天目一神社と二ノ宮の神職・政行の嫡男  
清原政秀→推馨→真人長秋
  - ・家計困難、苦学、写本により勉学、橋神道
  - ・天明6年(1786)、2度目の伊勢参宮時に宣長に会う、「直毘童」書写
  - ・寛政3年(1791)、3度目の伊勢参宮時に鈴門入門(老父と幼女を妻に託す)  
杉谷参河(神職)も入門、祖屋寓居、朝夕自炊、百有餘日写本に努める  
(浴道有志の応援、おからの話)
  - ・寛政10年(1798)、4度目の伊勢参宮時に宣長に会う
  - ・長秋の生き方、姿勢(一生村夫子、弟子百余名、自負、九州鈴門国学の間祖)
3. 帆足京と享和元年の旅
  - ・父長秋、母岩越氏。八潮→京
  - ・天賦の秀才、父の期待(机上の針、厳しい訓育、友達とは異なる生活)
  - ・享和元年(1801)、長秋・妻・京、京都へ(長秋、勅許「従五位下下総守」)  
京都にて宣長に会う。宣長帰坂後、3名も松坂へ(書写と参宮目的)  
※時に京15歳(長秋15歳で初参宮)→『刀環集』  
困窮する親子、粗食粗屋での書写(雨漏りの話)、鈴門の応援  
『古事記伝』『歴朝詔詞解』等を書写、講義・歌会への出席、周囲の驚嘆
  - ・松坂を去り、宣長と別れる(約4週間後宣長没)、伊勢へ  
村を挙げての迎え
4. その後の京
  - ・家族で九州歴遊、京の眼病平癒祈願(春庭の眼病)
  - ・岡貞亮と結婚(婿養子・貞亮、長秋の弟子、京の1歳上)
  - ・貞亮と京の家出(貞亮26歳、京25歳)、梅干3個と処世の途  
「父か夫か」→京の答え
  - ・長秋の怒りと悲しみ、京の困窮、母の援助、長秋妻を離縁
  - ・二度と故郷を訪れず、一通の便りもなし
  - ・文化14年(1817) 京、長門国二見浦(山口県下関市)にて没
  - ・父の悲しみ、京書写本への歌の書き入れ
  - ・善念寺過去帳  
「芝蘭院岡芳徳京信女 六月廿二日 二見浦口サイ妻 行年廿七歳 俗名京」  
医師ロサイ(流れ者)は岡貞亮か(一説には京は貞亮に離縁されたとも。不明)  
葬られた場所不明
  - ・文政5年(1822)長秋没  
没後、京の母は京の墓を長秋の墓の傍らに建てる  
正面「従五位下下総守長秋女京之墓」、左右面に没年・月日、  
裏面「母建之、京春徳三十一」
5. まとめ
  - ・それ自体のために追究する「学問」と一女性としての「人生の自由」

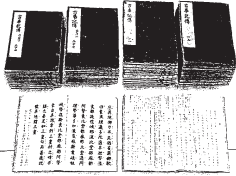
#### ※参考文献

山田勲蔵『本居宣長翁全傳』四海書房(昭和13年)  
山鹿市史編纂室『山鹿市史 下巻』山鹿市(昭和60年)  
前田淑『江戸時代女流文芸史【雑日記編】—地方を中心に—』笠間書院(平成10年)  
九州国立博物館「古事記伝と九州の国学者」(平成24年)

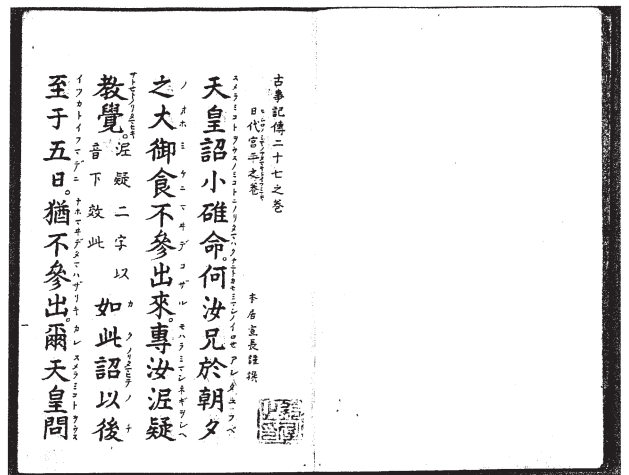
年表資料

九州国立博物館「古事記伝と九州の国学者」(平成24年)より

本居宣長と『古事記』『古事記伝』		帆足長秋・京 父娘の足跡	
天武朝(672~86)	天武天皇、「南記」と「田原」の詠りをたすため、種田阿礼に頼み替わらせる。	長秋・京「古事記伝」書きの旅 享和元年(1801)	
和銅5年(712)	天安万葉、種田阿礼が読み替った記録を脱獄し、「古事記」を完成させて、元明天皇に献上する。	空閑7年(1757) 12月8日、長秋、肥後国山鹿郡久原村(現在の熊本県山鹿市)の天目一神社の神官・政行の長男として生まれる。	
享保15年(1730)	5月7日、宣長、伊勢国飯高郡松坂(現在の三重県松坂市)に商人・小津定利の長男として生まれる。	天明6年(1786) 4月、伊勢神宮参拝の帰途、宣長にはじめて会い、宣長著「南記」を書き写す。	
宝暦2~7年(1752~57)	医者修行のため上京する。懸崖山に医学を学び、堀元厚・武川半蔵に医学を学ぶ。宝暦6年7月、「古事記」を購入する。	天明7年(1787) 12月22日、京、長秋の長女として生まれる。	
宝暦7年(1757)	松坂の自宅で医者を開業する。	寛政2年(1790) 9月、「古事記伝」巻1~5を刊行する。	
宝暦13年(1763)	5月25日、買収真蹟と出会う。12月、真蹟に入門する。	寛政3年(1791) 松坂に遊学。6月、宣長に入門する。8月~10月、陸奥国塩釜や多賀城跡を旅行し、松坂に帰る。	
明和元年(1764)	『古事記』研究に本格的に着手する。	寛政4年(1792) 正月、松坂にて、宣長著「阿礼傳」を書き写す。	
		寛政10年(1798) 伊勢神宮に参拝し、宣長を訪ねる。	
		享和元年(1801) 4月9日、長秋、妻と娘・京とともに伊勢神宮・松坂を目的地として山鹿を出発する。6月4日、長秋、従五位下に叙される。同日、長秋と京、京都滞在中の宣長を訪問する。6月20日、長秋と京、松坂に到着する。6月24日から7月27日まで、長秋と京、宣長自筆本『古事記伝』巻24~30の7冊を書き写す。9月2日、長秋ら、松坂を出発する。11月25日、長秋ら、山鹿に帰郷する。	
		享和3年~文化15年(1803~18) 長秋と京(享和3年のみ)、長瀬真幸所蔵本などを借りて、残りの『古事記伝』を書き写し、全44巻の写本を完成させる。	
		文化9年(1811) 9月8日、京、長秋の妻で夫の同僚亮とともに家出する。	
		文化14年(1817) 8月25日、京、長門国二見郡(現在の山口県下関市)にて没。	
文政5年(1822)	『古事記伝』全44巻刊行が完了する。	文政5年(1822) 正月14日、長秋病没。	

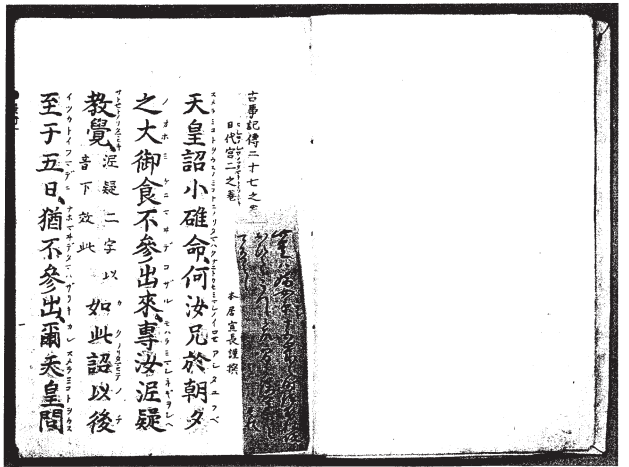


【重要文化財】古事記伝再稿本 全44巻 本居宣長筆(年表提供:三浦長秋氏・本居宣長氏遺族)



重要文化財 古事記伝再稿本 巻二十七  
本居宣長筆

江戸時代 1798(寛政10)年  
三重県・本居宣長記念館蔵



熊本県指定文化財 古事記伝写本 巻二十七  
本居宣長筆 帆足京筆

江戸時代 1801(享和元)年  
個人蔵(熊本県・山鹿市立博物館保管)



次回の例会

第1640回例会 職場例会  
5月20日(火) 於 半田信用金庫